

# New forms of learning in co-configuration work

協同構成的仕事における新しい学習の形

2012年7月11日

関根雅泰

著者（発表年：2004年）

Yrjo Engestrom ユーリア・エンゲストローム

ヘルシンキ大学 教育学科

活動理論・発達のワークリサーチ・センター 所長



## 構造図

- I. Co-configuration as a new type of work and production  
協同構成という新しいタイプの仕事と生産
- II. Theory of expansive learning as framework and challenge  
枠組みと挑戦としての拡張的学習の理論
- III. The landscape of learning in co-configuration  
協同構成における学習の風景
- IV. Methodology  
方法論

## 要約

- ・協同構成的環境における学習について説明。
- ・協同構成とは、戦略的提携、サプライヤー間のネットワークといった複数の生産者達の協同による新しいタイプの仕事。
- ・協同構成的環境における学習は、非連続的に長年にわたり、複数の相互関連した活動システム、地方とグローバルに展開した組織において行われる。
- ・学習は、クライアントやユーザーの貢献に大きく依存している。
- ・協同構成は、2重の学習挑戦を仕事組織に課す。
- ・介入的、縦断的方法論について紹介。

## I. 協同構成という新しいタイプの仕事と生産

### ・ Barley and Kunda(2001)

- ・これまでの組織理論は官僚主義的な仕事の観察を基にしており、今日の仕事の性質上、それら理論の適合性に疑問符を投げかけざるを得ないと主張。
- ・彼らの主張は組織と職場学習の研究にも当てはまる。仕事の性質の歴史的变化を理解しなければ、組織と職場学習の理論は、一般的で抽象的すぎて、現在現れ始めている新しい形の学習を捉えることはできないであろう。

## I. 協同構成という新しいタイプの仕事と生産

### ・ Victor and Boynton(1998)

- ・製造産業の歴史における5つの種類の仕事というフレームワークを提示した。
- ・それぞれの仕事は特定の知識と学習を必要とする。



Source: Adapted from Victor and Boynton (1998, pp. 6, 233)

### I. 協同構成という新しいタイプの仕事と生産

協同構成とは、歴史的に新しく現れた仕事の種類であり、次の特徴を持つと言える：

- ①「顧客の知恵を生かした」製品、サービスに合う
- ②顧客、生産者、製品/サービス間の相互交換が継続的に行われる
- ③持続的な協同構成と長期的な製品/サービスのカスタマイズ（顧客に合わせた仕様）
- ④積極的な顧客の関わり（本当の意味での生産者のパートナーとなる）
- ⑤組織内、組織間の多様な協同生産者とのネットワーク
- ⑥協同構成活動を通じての相互学習

・協同構成においては、固定化されたただ一つの権威は存在せず、柔軟な「ネットワーキング」が必要とされる（Engstrom et al., 1999）。

### I. 協同構成という新しいタイプの仕事と生産

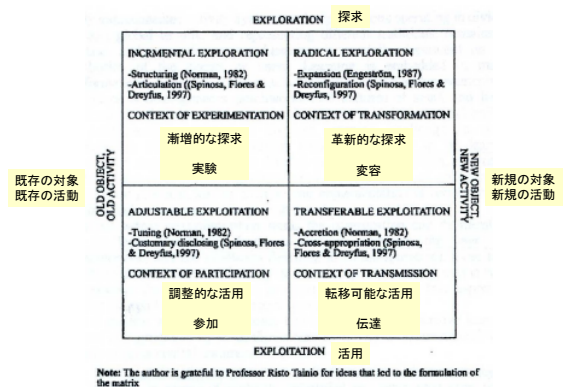
事例：メディカルケア

- ・多くの患者が複数の病気を持つようになり、今までの標準的な単一診療のケアパッケージでは、対応できなくなってきた。
- ・これらの患者の多くは、1人の介護者から別の介護者へと移され、全体を把握している介護者は1人もいないという状況にある。
- ・協同構成的仕事によって複数の介護者と患者相互が学び合い、よくコーディネートされた長期的なケアプランを作りだすことができるからである。
- ・成功する協同構成的仕事には対話が必要である。そこには彼らの活動に対するリアルタイムのフィードバック情報がある。

### 意見交換①

- ・「協同構成的な仕事」の例

### II. 枠組みと挑戦としての拡張的学習の理論



### 意見交換②

- ・「4種の学習」の例

### II. 枠組みと挑戦としての拡張的学習の理論

- ・これら4つの種類の学習は、お互いが排他的なものではない。Bateson(1972)が指摘しているように、拡張的学習は、他の種類の学習のサブプロセスとも関わりを持つ。
- ・拡張的学習理論は、協同構成的な状況における学習を分析しデザインする際の中心的枠組みとなりうる。
- ・まだ理解されていないのが、前進的傾向を持つ拡張的学習が、水平的あるいは横広がり傾向を持つ協同構成にどう組み込まれていくのかという点である。
- ・そのようは水平的移動パターンを持つ拡張的学習の研究として以下のようなものがある：

境界越え (Engstrom et al., 1995)  
 多声対話 (Engstrom, 1995)  
 交渉的ネットワーキング (Engstrom et al., 1999)、  
 認知的先駆 (Engstrom, in press)。

### III. 協同構成における学習の風景

- ・協同構成は、仕事組織に2つの学習挑戦を促す：
  - 1) まず協同構成そのものが学ばれなくてはならない  
(協同構成のための学び)
  - 2) 協同構成的仕事において、組織とメンバーは、ユーザー、製品/サービス、生産者間の相互作用から常に学ぶ必要がある  
(協同構成の中での学び)
- これら2つの側面「ための学び」と「中での学び」は、実践の中で合流する。
- ・一般的な仮説として、協同構成的仕事において必要とされ、発生する拡張的学習は、次の3つの特徴を持つと言える。
  - (1) 変容的学習である。
  - (2) 水平的で対話的な学習である。
  - (3) 隠れた学習である。

### 意見交換③

- ・「拡張的学習」の例

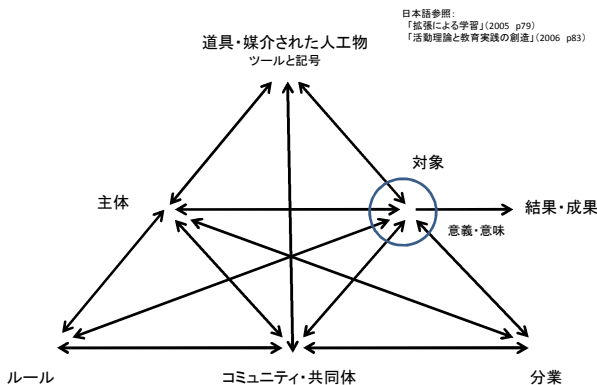
### IV. 方法論

- ・発達のワークリサーチ/仕事研究 (Engstrom, 1993) は、仕事と組織研究に文化歴史的活動理論を適用したものの。
- ・文化歴史的活動理論においては、形成的経験と発達の介入が、当初からこの方法論の必須部分であった。
- ・協同構成状況における拡張的学習の研究は、縦断的、介入的アプローチが取られる必要があり、それは3つの方法論の原則を踏まえる必要がある：
  - ① 協同構成的仕事の対象に従う
  - ② 対象にクライアントやユーザーの声をあてる
  - ③ 生産者とクライアントが新しいモデル、コンセプト、ツールを共有することで、対象を拡張する

### 感想

- 興味深かった所・面白かった所
  - ・組織の中での閉ざされた学習ではなく、外部への開かれた学習に着目している点。
  - ・「そこに無いものを学ぶ」という拡張的学習の視点。  
(学習 = 変革、創造)
- 疑問点
  - ・協同構成的仕事における学習が、本当に拡張的学習なのか？  
(前段で個人における「獲得・参加」があって、初めて集団における「拡張」が起こるのでは。拡張的学習に至る前で終わってしまうことが多いのでは。)

### 参考：活動システムのモデル



### 参考：拡張的学習サイクルにおける学習行為

